

ナイジェリア

Federal Republic of Nigeria

	2009年	2010年	2011年
①人口:1億6,439万人(2011年)			
②面積:92万3,769k㎡			
③1人当たりGDP:1,490米ドル (2011年)			
④実質GDP成長率(%)	7.0	8.0	7.4
⑤消費者物価上昇率(%)	13.9	11.8	10.3
⑥失業率(%)	19.7	21.4	23.9
⑦貿易収支(100万米ドル)	29,943	21,261	n.a.
⑧経常収支(100万米ドル)	13,299	2,497	14,790
⑨外貨準備高(100万米ドル)	44,763	34,919	35,212
⑩対外債務残高(100万ナイラ)	590,441	689,845	n.a.
⑪為替レート(1米ドルにつき, ナイラ, 期中平均)	148.9	150.3	153.9

〔注〕2011年の①③～⑤⑧⑨は推計値。⑤は前年12月比
〔出所〕①②④～⑥:ナイジェリア連邦統計局, ③⑧⑨⑩:IMF, ⑦⑪:ナイジェリア中央銀行(12月末値)

■ 石油生産が停滞、非石油部門は好調

ナイジェリア連邦統計局によると、2011年の実質GDP成長率は7.4%だった。通信業(34.8%増)、建設業(12.3%増)、ホテル・レストラン業(12.1%増)、卸売り・小売業(11.3%増)、不動産業(10.4%増)などが好調で、非石油部門全体で8.9%増と大幅に増加した。

一方、GDPの約4割を占める石油・ガス部門の伸び率は0.02%だった。産油地帯であるナイジャー・デルタ地帯の治安は改善したものの、2011年の平均原油生産量は日量238万バレルと前年(日量247万バレル)を下回った。油田開発権や石油販売権供与時の競争性・透明性の確保等を目的とした石油関連法案が成立せず、原油生産の新規・拡張投資を十分に呼び込めなかったこと、ナイジェリア産原油を利用してきた米国内の石油精製所が、採算の悪化を理由に相次いで稼働を休止したことなどが要因と考えられる。

■ 輸出入ともに過去最高を記録

ナイジェリア連邦統計局によると、2011年の輸出(通関ベース)は前年比46.3%増の19兆360億ナイラ、輸入は

50.9%増の10兆332億ナイラとなり、ともに過去最高を記録した。ナイジェリアは産油国であるものの、国内の石油精製設備が不十分であることから、原油を輸出し、不足する石油製品を輸入するという貿易構造だ。

輸出では、全体の約7割を占める原油が、48.0%増と大幅に増加した。ナイジェリア産原油の1バレル当たりの平均価格が、前年の80.9ドルから113.8ドルに上昇したことが大きな要因だ。一方、非石油部門の輸出も大幅に増加し、中でも英国、スペイン、フランス、米国向けの天然ゴム輸出が飛躍的に伸びた結果、プラスチック・ゴム生産品が8倍以上と急増した。

輸入においても、鉱物性生産品が10倍以上と大幅に増加した。一方、従来から高い構成比を占める機械・電気機器・同部品は3.2%の微増にとどまった。

国別にみると、輸出では米国(構成比23.0%、前年比2.0%減)が引き続き、最大の相手国であった。ブラジル(8.6%、79.8%増)や英国(6.4%、6.4倍)は大幅に増加。日本(0.3%、1.5%増)は微増にとどまった。輸入でも、米国(構成比16.0%、前年比34.7%増)が2年連続で最大の相手国となった。2位の中国(13.6%、23.8%増)もほぼ同規模の輸入額だった。欧州では前年同様にフランス(5.6%、43.9%増)が最大で、ガソリンの新たな輸入相手国になったドイツ(5.2%、16.8倍)がそれに続いた。なお、日本(4.9%、2.9倍)は5位だった。

■ 直接投資は引き続き増加傾向

中央銀行によると、2011年の対内直接投資額(ネット、フロー)は、国際収支ベースで62億9,766万ドル(前年比29.4%減)だった。

また、ナイジェリア投資促進協議会(NIPC)によると、2011年の対内直接投資申請額は35億802万ドル(前年比23.9%増)だった。分野別では、前年と同様、銀行業(構成比32.3%)、金融業(30.7%)、製造業(16.0%)、通

表1 ナイジェリアの主要品目別輸出入<通関ベース>
(単位:100万ナイラ, %)

	2010年		2011年	
	金額	金額	構成比	伸び率
鉱物性生産品	11,415,944	16,519,208	86.8	44.7
原油	9,153,088	13,544,437	71.2	48.0
プラスチック・ゴム生産品	147,480	1,221,126	6.4	728.0
加工食品・飲料品等	240,074	293,694	1.5	22.3
輸送機器・同関連品	85,358	234,837	1.2	175.1
卑金属・同製品	85,540	186,267	1.0	117.8
輸出合計(その他含む)(FOB)	13,009,906	19,035,952	100.0	46.3
機械・電気機器・同部品	1,931,014	1,993,271	19.9	3.2
鉱物性生産品	176,585	1,865,821	18.6	956.6
輸送機器・同関連品	1,404,496	1,431,443	14.3	1.9
プラスチック・ゴム生産品	490,071	920,674	9.2	87.9
植物性生産品	270,775	892,423	8.9	229.6
輸入合計(その他含む)(CIF)	6,648,526	10,033,195	100.0	50.9

〔出所〕ナイジェリア連邦統計局。

信業(9.5%)が中心だった。対内投資(直接・証券投資の合計)を国別でみると、英国(構成比46.1%)が1位で、以下、米国(18.8%)、オランダ(9.7%)、南アフリカ共和国(以下、南ア)(4.0%)が続いた。なお、東アジアは中国(0.7%)や日本(0.1%)は全体からみるとシェアが小さく、韓国の実績はゼロだった。

農業・食品分野においては、シンガポールの農産物商社オラム・インターナショナルが2011年12月に、ナイジェリア中部のナサラワ州に6,000ヘクタールの稲作地向けの灌漑設備および精米施設の建設に、4,920万ドルを投資すると発表した。同社はまた、2012年2月に地場製菓大手のティタニウム・ホールディングの買収(1億6,700万ドル)、6月には日用品・飲料の地場大手カヤス・エンタープライジズの全株取得を発表した(6,650万ドル)。

石油・ガス分野では、2011年10月に英蘭シェルが国内パイプラインの建設(約5,068万ドル)を発表した。石油化学分野では、2011年5月にインドのインドラマが、リバーズ州での18億ドル規模の肥料およびメタノール工場の建設計画を発表した。同社は、ナイジェリアの民営化事業の一環で、2006年にナイジェリア国営石油公社(NNPC)からエレメ石油化学会社を買収して以降、同分野における事業の拡大を強力に推し進めている。

卸・小売業では、南アのショップライトが、2011年9月にエヌグ州にナイジェリアに3店舗目のスーパーマーケットを開店した。また12月には、ラゴスのショッピングモール「イケジャ・シティ・モール」に4店舗目を開店した。2012年3月には、ドイツのポルシェが、高所得者市場の開拓を図るため、ラゴス市内に初めて販売店を設置した。

なお、東アジアの企業の動きでは、中国の建設分野での事例が目立った。中国土木工程集団(CCECC)は、ナイジェリア初の近郊列車用線路の敷設やラゴス州内の新たな自由貿易区の開発を手掛けている。また、2011年2月に中国葛洲坝がナイジェリア東部の長距離鉄道敷設事業を受注した。ナイジェリアと中国との関係強化は、2011年9月に中銀が外貨準備通貨として中国元を導入すると発表したことからもうかがえる。一方、2011年に韓国による新規投資はなかったが、2012年3月にジョナサン大統領が訪韓して韓国企業に投資を呼びかけるなど、ナイジェリア側も関係の強化に積極的だ。

ナイジェリア企業による対外直接投資としては、2011年4月に国内最大手ダンゴテ・グループが、エチオピアやタンザニアなどで、総事業費39億ドルのセメント工場建設の計画を発表。また、主に石油・ガス関連企業向けに航空物流サービスを提供するカバートン・ヘリコプターズは、2012年3月にエクソン・モービルなどが出資するカメルーン石油運輸会社(COTCO)と5年間の長期契約(数百万

表2 日本の対ナイジェリア主要品目別輸出入<通関ベース>
(単位:100万ドル,%)

	2010年		2011年	
	金額	金額	構成比	伸び率
輸送機器	255	187	30.1	△ 26.4
バス(10人以上輸送自動車)	121	78	12.6	△ 35.5
乗用車	97	71	11.4	△ 27.0
鉄鋼	143	150	24.0	4.5
一般機械	54	83	13.4	53.7
合成繊維の長繊維のトウ	47	48	7.8	3.7
電気機械	56	47	7.5	△ 16.6
ゴム製品	40	27	4.4	△ 32.0
輸出合計(その他含む)(FOB)	668	623	100.0	△ 6.8
液化天然ガス	285	1,354	81.0	375.0
石油・瀝青油(原油)	80	208	12.4	160.0
ゴマ(採油用のもの)	61	62	3.7	0.2
輸入合計(その他含む)(CIF)	552	1,672	100.0	203.2

【出所】財務省「貿易統計(通関ベース)」をドル換算。

ドル規模)を締結し、海外進出を果たした。

■ 日本による液化天然ガス(LNG)の輸入が急増

日本の貿易統計をドル換算すると、2011年の日本のナイジェリアへの輸出額は6億2,250万ドル(前年比6.8%減)と減少に転じた。一方、ナイジェリアからの輸入額は16億7,203万ドルと約3倍となり、2008年以来の日本側の貿易赤字となった。

日本の輸出は、バス(構成比12.6%、前年比35.5%減)、乗用車(11.4%、27.0%減)が不調だったことで輸送機器が減少した(30.1%、26.4%減)。他方、鉄鋼(24.0%、4.5%増)や一般機械(13.4%、53.7%増)は増加した。

輸入は、原子力発電所の停止で火力発電用のLNG需要が高まったため、LNG(構成比81.0%)が金額で前年比4.8倍、数量で3.1倍と飛躍的に伸びた。また、原油(12.4%)も金額で2.6倍、数量で70.5%増と増加した。ゴマ(3.7%)は、金額で0.2%増と横ばい、数量で2.8%減だったが、2010年に続き、ナイジェリアは日本にとって最大のゴマの輸入相手国だった。

日本企業による投資事例としては、2011年9月に会宝産業が現地企業と組んで合弁会社を設立し、中古自動車部品の輸入を開始した。同社はリサイクル工場の設立に向けた準備を進めている。同月、本田技研工業のナイジェリアにおける二輪車生産販売子会社は、約10万ナイラ(約5万円台)の自動二輪車(排気量125cc)の販売を開始した。2012年4月には、三菱商事が、サブサハラアフリカ唯一の尿素肥料工場を保有する地場企業ノートル・ケミカル・インダストリーズと、肥料化学品製造に関する合弁事業設立について合意。新規製造工場の初期設計は、三菱重工業が担うことで合意がなされ、2016年までに操業を開始する見込みだ。また、2012年6月にNECは、情報通信事業の強化を図るため現地法人を設立した。